

平成25年度消防研究センターの一般公開

消防研究センター

発明の日（4月18日）を含む科学技術週間に合わせて、4月19日（金）に一般公開を実施しました。今年度も、隣接する消防大学校、日本消防検定協会及び一般財団法人消防科学総合センターと共同で開催し、いわゆる三鷹キャンパスをあげての一般公開となりました。

今年度の一般公開では、日頃行っている研究開発の紹介や毎日の防火安全につながる体験コーナーなど全24項目にわたる展示を行い、うち9項目については実演を行い、500人近くの来訪者を迎えることができました。来訪者の内訳は、消防防災関連企業の会社員（24%）や消防職員（21%）などの消防関係が多く来場しましたが、消防防災関連企業を除く一般の会社員（39%）や学生など幅広くご参加頂きました。

消防研究センターでは、平成23年3月11日の東日本大震災の課題を踏まえた研究開発に取り組んでいます。それらのうち、太陽電池モジュール関連火災における消防活動時の危険性についての紹介（写真1）や、ガレキ

や海水で立ち入りが困難な津波被害現場での消火・人命救助用消防車両（小型水陸両用車）（写真2）について、実物の展示や実演を行いました。

消火については、泡消火のメカニズムを、燃焼状況がタンクの底や側面から観察可能な実験用小規模タンクの実演をまじえて紹介しました（写真3）。さらに、霧状の水を噴射して水損を少なくして効果的に初期消火が可能な2流体ノズルを用いて、可燃性液体火災の消火実演（写真4）を行いました。

消防研究センターは、今後も、国民の安全を守る身近な研究機関として、また、消防防災を専門に研究する唯一の国立研究機関として、より一層、消防防災科学技術の向上に努めてまいります。

問い合わせ先

消防庁消防研究センター 研究企画室
TEL: 0422-44-8331（代表）



写真1 太陽電池モジュールの消火活動における危険性の紹介



写真3 泡消火のメカニズム解明のための燃焼実験



写真2 津波被害現場用の消防車両等の実演



写真4 2流体ノズルを用いた消火の実演